

第11回

全国ユース環境活動発表大会

参加チーム募集中!

高校生の皆さんが取り組む環境活動やSDGs活動を募集し、全国に向かって発表する大会です。

日頃の活動成果を形にして、大会からたくさんの人たちに向けて伝えてください!

また大会プログラムの交流ワークショップで、他校生との交流を通じて成長のきっかけを見つけませんか?

地方大会

開催日 2025年11月～12月

出場高校 各地方大会につき12校～13校

- 北海道大会(札幌) 11月29日(土) 12時～
- 東北大会(仙台) 12月 6日(土) 12時～
- 関東大会(東京) 12月 6日(土) 12時～
- 中部大会(名古屋) 11月29日(土) 12時～
- 近畿大会(大阪) 12月21日(日) 12時～
- 中国大会(広島) 12月14日(日) 12時～
- 四国大会(高松) 12月20日(土) 12時～
- 九州・沖縄大会(福岡) 12月14日(日) 12時～



全国大会

開催日 2026年1月31日(土)・2月1日(日)

出場高校 各8地方大会で選ばれた2校(計16校)

1日目

全国ユース環境フォーラム
(特別講演&交流会)

2日目

発表&表彰



皆さまからのご応募お待ちしております!

- <主催> 全国ユース環境活動発表大会実行委員会 (環境省/独立行政法人環境再生保全機構/国連大学サステナビリティ高等研究所)
- <後援> 読売新聞社
- <協力> 地方環境パートナーシップオフィス (EPO)、地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)、ESD活動支援センター
- <協賛> キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社、東芝プラントシステム株式会社

私たちはユースの環境活動を
応援しています。

よろこびがつなく世界へ
KIRIN

KY&EI

SGH
Grow the new Story.

TOSHIBA
東芝プラントシステム株式会社

発行

全国ユース
環境ネットワーク
Japan Environmental Youth Network

〒212-8554 神奈川県川崎市大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8階
独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金内 全国ユース環境ネットワーク事務局

TEL 044-520-9505 MAIL youth@erca.go.jp

URL https://www.erca.go.jp/jfge/youth/

第11回

全国ユース 環境活動発表大会

The 11th National Youth Environmental Activity Presentation Contest

参加団体募集

応募締切

2025年10月28日(火) 18時まで

開催日

地方大会: 2025年11月～12月 全国大会: 2026年1月31日(土)・2月1日(日)

大会へのご応募はこちら!



皆さまからのご応募をお待ちしています!

環境省
Ministry of the Environment

独立行政法人
環境再生保全機構
ERICA

UNU
IAS

全国ユース環境活動発表大会とは

高校生の皆さんが取り組む環境活動やSDGs活動を募集し、全国に向かって発表する大会です。日頃の活動成果を形にして、大会からたくさんの人たちに向けて伝えてください。

大会では同じ志を持つ仲間との交流や、活動を通じて得た気づきや学びを共有するワークショップも実施します。交流を通じて新たな気づきや成長のきっかけを見つけませんか？

「この活動を誰かに知ってほしい」「もっと広げたい」「他の人の取り組みも見てみたい」そんな思いを持っている高校生の皆さん、ご応募をお待ちしております！

地方大会

開催日程 2025年11月～12月

出場団体 各地方大会につき12～13団体
(応募多数の場合、一次選考がございます)

原則、オンラインで出場することはできません。
予めご了承ください。



表彰

- 地方大会最優秀賞
- 高校生が選ぶ特別賞
- 審査委員特別賞
- 先生が選ぶ特別賞
- 協賛企業特別賞
- 未来創造特別賞
- 地域貢献活動賞
- 優秀賞

開催日程・会場

北海道大会(札幌)
日時:11月29日(土)12時～
会場:ACU SAPPORO

東北大会(仙台)
日時:12月6日(土)12時～
会場:TKPガーデンシティ仙台

関東大会(東京)
日時:12月6日(土)12時～
会場:TKPガーデンシティ
PREMIUM品川HEART

中部大会(名古屋)
日時:11月29日(土)12時～
会場:アーバンネット名古屋
ネクスタカンファレンス

近畿大会(大阪)
日時:12月21日(日)12時～
会場:大阪国際会議場
(グランキューブ大阪)

中国大会(広島)
日時:12月14日(日)12時～
会場:広島国際会議場

四国大会(高松)
日時:12月20日(土)12時～
会場:レクザムホール

九州・沖縄大会(福岡)
日時:12月14日(日)12時～
会場:福岡国際会議場

地域
区分

- 北海道大会:北海道
- 関東大会:茨城、栃木、群馬、千葉、埼玉、東京、神奈川、新潟、山梨、静岡
- 近畿大会:滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- 中国大会:鳥取、岡山、島根、広島、山口
- 九州・沖縄大会:福岡、大分、宮崎、佐賀、熊本、長崎、鹿児島、沖縄
- 東北大会:青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
- 中部大会:富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知、三重
- 四国大会:香川、徳島、愛媛、高知

※環境省地方環境事務所の所管する都道府県別に区分します。

全国大会

開催日程 2026年1月31日(土)・2月1日(日) 2日間開催(会場・国連大学)
1日目 全国ユース環境フォーラム 2日目 発表&表彰

出場高校 各8地方大会で「地方大会最優秀賞」、「高校生が選ぶ特別賞」を受賞した2校が出場します。(計16団体)

表彰

- 環境大臣賞
- 環境再生保全機構理事長賞
- 国連大学サステナビリティ高等研究所所長賞
- 読売新聞社賞
- 高校生が選ぶ特別賞
- 先生が選ぶ特別賞
- 協賛企業特別賞
- SDGs活動特別賞
- 優秀賞

応募要領

募集内容

地球温暖化対策、脱炭素、生物多様性の保全、自然共生、資源循環など「環境」に関わる活動、「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標達成に資する活動

応募資格

環境活動、SDGs活動を実践する高校生*の団体(部活動、委員会、有志団体、高校以外の環境団体など)であり、活動の実践者が高校生であれば応募可能です。高校や所属団体からご応募ください。
※高等学校の1～3年生、高等専門学校の高等学年、中等教育学校の4～6年生。

審査基準

以下の観点から総合的に評価します。
自主性、着眼点、協働、改善度、発信力、社会的影響力

交通費

地方大会・全国大会ともに、各団体の高校生と引率者の往復交通費を規程に基づいて支給します。(高校生5名と引率者1名の計6名まで)

応募方法

大会ホームページから活動記入用紙をダウンロードし、ご記入の上、ホームページの応募フォームよりお申し込みください。

URL:<https://www.erca.go.jp/jfge/youth/youth2025/index.html>

応募締切 2025年10月28日(火) 18時まで!



スケジュール

応募開始
9月上旬



上記「応募方法」のURLから応募資料をダウンロードし、応募フォームからご応募ください

応募締切
10月28日(火)



一次審査
11月中旬



審査結果は事務局よりメールでご連絡いたします

地方大会
11月～12月



全国8地方で開催します

全国大会
1月31日・2月1日



各地方大会で選ばれた2校が全国大会へ出場します

皆さんの活動を全国に向けて発信します!

ご応募いただいた**すべての活動内容**は、新聞・ユース大会ホームページへ掲載されます!
皆さんの活動を全国の仲間や地域の人たちに伝えませんか?

読売SDGs新聞

読売SDGs新聞

小中高生のSDGsアクションを掲載している読売SDGs新聞に、ご応募いただいた**すべての高校**の活動内容が掲載されます!



ユース大会 ホームページ

ユース大会ホームページにご応募いただいた**すべての高校**の活動内容が掲載されます!

過去の活動内容は右の2次元コードからご覧いただけます。全国の高校生がどのような活動をしているのか、ぜひチェックしてみてください!



2024年度

全国ユース環境活動発表大会 受賞校 特別インタビュー

「2024年度 全国ユース環境活動発表大会(全国大会)」で「環境大臣賞」「環境再生保全機構理事長賞」「国連大学サステナビリティ高等研究所長賞」を受賞した3校の高校生が、「大阪・関西万博」にて、取り組んでいる環境活動を世界に向けて発信しました！発表を行った3校へのインタビューをお伝えします。

環境大臣賞

徳島県立小松島西高等学校 TOKUSHIMA 雪花菜工房×藻藍部

藻場の再生で環境ビジネス！
海洋GXと海洋DXで
ウミノ経済循環型社会を目指して



Q 大会で発表したテーマと活動で、一番伝えたいことはなんですか？

徳島県南部をはじめ西日本全域で、藻場が急速に減少しています。海水温の上昇によって、アイゴなど温暖海域に生息する未利用魚が北上し、藻場を食い荒らしています。私たちはこの現状を変えるため、未利用魚を活用した商品開発や藻場再生のための肥料を開発・投下し、全国の高校生初となるAI搭載の水中ドローンによる藻場のモニタリング調査にも取り組んでいます。活動を通して最も伝えたいのは、「環境保全と経済の支援は両立できる」ということです。藻場再生と未利用魚の活用によって漁師の収入を支え、経済を循環させることができます。高校生の力でも社会を動かせることを、より多くの人に伝えたいです。

Q 大会に参加してみた感想や、応募を検討されている高校生の皆さんへメッセージをお願いします。

この大会に参加して、全国の高校生がそれぞれの地域で工夫しながら環境問題に取り組んでいることを知り、すごく刺激を受けました。他の学校の発表はどれも面白く、自



AI水中ドローンを使った海洋調査をしている様子

分たちの活動にもつながるヒントがたくさんありました。そして何より、私たちの活動が評価され、環境大臣賞を受賞することができたのは本当に嬉しかったです。交流会では、同じように頑張っている仲間と話すことができ、とても心強かったです。発表は緊張しましたが、自分たちの想いを伝える良い機会になりました。参加を考えている人には、「完璧じゃなくていいから、まずやってみる」ことが大切だと伝えたいです。少しでも環境を守りたいという気持ちがあれば参加してみてください。



ブダイを使った商品「金のブダイカレー」



アイゴを使った商品開発の様子



自然資源を活用した肥料

●顧問の先生から●

港町から全国へ——地域資源を活かした環境活動の挑戦

本校では環境教育に力を入れており、特に港に近い立地を生かして、海を豊かにする取り組みを進めています。その手法として、藻場の再生、自然資源の活用、未利用魚を使った商品開発を一体的に経済循環へとつなげるビジネスモデルを構築し、全国へ発信したいという思いから大会への応募を決めました。

誰かが始めた取り組みに協賛し、お手伝いすることこそが、社会貢献活動の第一歩だと私たちは考えています。まずは、地元で開催されているイベントに参加し、現場でどのような課題があるのかをリサーチしてみてください。私たちの取り組みも、地元のマルシェへの参加がきっかけでした。当初は小さなプロジェクトでしたが、現在ではさまざまな企業や団体と連携する大きなプロジェクトチームへと成長しました。この活動には、私たちの思いに賛同し協力してくれた他校の高校生も参加してくれています。

こうした出会いを大切に、今後も全国へとネットワークを広げていくことができれば、どのような取り組みにおいても、新たな価値や楽しさが生まれると信じています。

環境再生保全機構理事長賞

宮城県農業高等学校 Re: 温故知新

Re: 温故知新



Q 大会で発表したテーマはなんですか？

高騰する肥料への対策として、偶然の失敗から発見した「ど根生効果」に注目しました。元肥なしで田植えし、後から少量の追肥をしたところ、根が深く太く育ち、収量も味も変わらなかったのです。この現象は88年前のブドウ栽培理論と一致し、水稻にも応用できると確信。追肥の負担を解決するため、田植機でまけて効果も高い新肥料「Re: 温故知新」を開発しました。肥料は1/3に、コストは78%削減。農業に新たな光を当てる挑戦です。



種まきの様子



田植えの様子



肥料3分の1の試験区と対象区

Q 大会に参加した感想や、応募を検討されている高校生の皆さんへメッセージをお願いします。

全国から集まった高校生たちの情熱と創意工夫に大きな刺激を受けました。中でも、全く異なる地域やテーマの発表から「課題の捉え方」や「伝え方」の多様性を学び、自分たちの研究にも新たな視点加わりました。他校との交流では、お互いの活動に共感し、連携の可能性を感じる場面もありました。

大切なのは、完璧な研究よりも「なぜだろうと思ったか」という想いだと思います。失敗も含めて、自分しか話せない物語がきっとあるので、自信をもって伝えてください。



イネの生育調査の様子



分解調査



食味調査

●顧問の先生から●

一つの失敗が大きな発見に——生徒の挑戦が広げる未来

きっかけは、生徒の失敗をきっかけにした研究が「本物の課題解決」につながると感じたからです。地域や農業の未来に本気で向き合う姿を、ぜひ多くの人に知ってほしいと思い、大会へ応募しました。大会では、全国の高校生が社会課題に真剣に挑む姿に触れ、生徒も私も大きな刺激と学びを得ることができました。

心がけているのは「結果より過程」です。失敗も成長の種だと伝えています。どんな場面でも「自分の言葉」で語るよう、生徒の想いや問いを大切に育てています。生徒の柔軟な発想や、困難にも諦めず挑戦する姿には何度も感動させられました。この大会は、生徒が社会とつながる貴重な機会です。研究の深さよりも、生徒の「想い」を信じて後押ししてあげてください。生徒の可能性が大きく広がる経験になるはずです。

国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞

北海道岩見沢農業高等学校 自然エネルギー班

厄介者の見方を変えて味方にする！
～雪ともみがらの循環利用による
持続可能な農業経営の実現～



Q 大会で発表したテーマと、一番伝えたいことはなんですか？

岩見沢市で厄介者とされている雪ともみがらの見方を変えて味方にするというのが私たち自然エネルギー班の目標です。雪を夏場の冷房として使い、もみがらを冬場の暖房燃料として使うという内容を発表させていただきました。

私たちのような豪雪地帯や稲作地帯は全国にたくさんあると思うので、私たちが先頭に立ってこの活動を進め、全国へ普及し、私たちのような考えもあることや未来について考えてほしいというメッセージを伝えたいと思っています。また、雪やもみがらのない地域でも、その地域で厄介者とされている資源の見方を変えることで、味方になる可能性があるということを考えるきっかけにしてほしいです。



冷房のエネルギーに利用する雪山



もみがら・米ぬかを利用した暖房燃料用ペレット

Q 大会に参加してみた感想はいかがですか？

大会では他校の皆さんの発表方法や環境活動の新しさに驚きました。環境問題をしっかりと考えていて、堂々としたプレゼンテーションでその気持ちが伝わってきました。それは交流会でも感じられ、面白いアイデアも出てくるなど、とても良いディスカッションになり、視野が広がりました。同じ目標を持つ仲間と交流することで新たな知識や気づきを得られるので、このような交流をもっと行いたいと思いました。



断熱作業の様子



融雪を利用した冷房装置の改良



ペレットの燃焼試験

●顧問の先生から●

垣根を越えた交流が生徒を変える——農業高校の挑戦とその広がり

「環境活動」と名のつくコンテストであったことから、本校が取り組む活動の趣旨と合致するのではないかと考えて、私が生徒に紹介したことが応募のきっかけです。実際に参加してみると、環境活動に対する意識の高い生徒が集まり、普通科や専門学科の垣根を越えて同世代の交流ができることに魅力を感じ、生徒たちの変容を感じることができました。また、教員同士でも情報交換の場とすることができ、継続的な活動にするためのヒントをいただいたり、学校の教育活動に取り入れたりは教員の変容にもつながると感じています。

農業高校の一番の強みは外部連携にあると考えています。家や学校以外の大人と関わる貴重な機会として、自分たちの言葉で課題解決に向けた議論や交渉を進めることができるように努めています。時間はかかりますが、なるべくこちらから手を出さず、結果に対する反省に時間をかけるようにしています。このような環境で成長し、社会に出る中で、多様な世代と円滑にコミュニケーションを図ることのできる人材となっていきたいと考えています。